



くわた恭子通信

http://kyoko.moo.jp
zxkyoko@yahoo.co.jp

[無所属]

発行日 H27年10月7日
 発行者 広島市議会議員
 くわた 恭子
 〒731-5153 佐伯区河内南2-30-2
 TEL929-2930 FAX929-2928
 OPEN 9時~17時(月~金)

地域の皆様 いつもお世話になっており、広島市議会議員のくわた恭子です。
 朝晩冷え込み、秋も深まっています。通信38号が出来たのでお届けします。

先月29日、9月議会が終了いたしました。今日の議会のトピックスは、何となくでも「安佐市民病院の建て替え」の議案でしょう。議会が終了した翌日の中国新聞には、1面TOPで「機能分散案と可決」と報じています。老朽化した雨どりのする病院の建て替えを望まない安佐北の住民はいるという議会も建て替えに反対の議員はいません。しかし、提案方法においては、市長の政治的センスはゼロ。上から目線の官僚的感覚では、地域住民の理解は得られず地域を二分してしまいました。誰もが望む病院の建て替えが満場一致ではなく、賛否が拮抗しての決断は良くありません。「不承不決の決意をのぞく」として市長意気込みで可決、審議中身は少なくなりました。



安佐市民病院 「折衷案」 機能分散案は二重投資、税金の無駄使い

平成26年2月、築30年以上老朽化、耐震基準も満たさない安佐市民病院の荒下地区（同区亀山南）への移転建て替え議案が提案されました。地域、議会を二分したこの議案は、25対25、議長が反対票を投じたことにより否決となりました。1年7か月経過した今議会には、病院機能を分散化する案に変更され提案されました。開業は平成34年、7年後の予定です。

全面移転の比較

現在地案	荒下地区移転案
高度・急性期医療、日常的な医療 日常的な医療	病床527床 災害拠点病院
現在地の駐車場と隣接する南側用地に新病棟を建設その後、旧病院を立体駐車場に、工期4年	4万平方メートルの民有地に建設 工期3年
7000㎡	10000㎡
8階程度	8階程度
352億円 建設費240億円 立体駐10億円 土地8億円 医機器70億円 道路整備34億円	339億円 建設費210億円 土地20億円 医機器70億円 道路整備39億円

※なぜ移転地が荒下地区なのか、未だにわかりません。地権者60人から直接土地を購入するのではなく、土地整理組合を作り20億円で購入する理由も明確な答弁はありませんでした。

機能分散型の試算

現在地機能案	荒下地区分散移転案
日常的な医療 地域包括ケア病床57床 ガンなどの緩和ケア20床 耐震基準を満たしている 北館に診療所を置く 健診センター、夜間急病の併設も検討	高度・急性期医療 災害拠点病院 病床450床 4万平方メートルの民有地に15000㎡を建設 低層化でコスト削減
現在の7階建て	5階程度
新たな病院を整備後、現在地は整備を始めるため未定	313億円 建設費205億円 土地19億円 医機器73億円 道路整備6億円

※当初の道路整備は、街づくり復興予算での整備が確定分散案では太田川堤防道路経費を計上
 ※機能を分散しても、建設費の圧縮は特にありません。現在地に今後必要な機能として、緩和ケアなど整備しますが経費は答弁しませんでした。

分散案は2週間で提案 / 反対しました

今回の病院機能分散案は、8/9 安佐北福祉センターで、はじめて市長が出向いた説明会で発表されました。地元説明会の雰囲気は物々しく、移転反対住民と賛成の住民との間で罵声も飛び交ったものでおどろきました。その説明会の最後10分程度のことです。市長が機能分散案を発表し、分散案の議案が提案されたのは2週間後の9/4。7/30に出された現在地にも病院機能を残してもらう旨の地域要望を踏えたもので、特に拙速な提案ではないとの

認識でした。移転反対を抑えるため病院機能を残すための文句はあったと言いはりです。しかし分散して利用者などの押しが掛かるのか、二重投資にならないか、安定的な経営ができるのかと質問はした。か「診療の重複はあく交差的な医療提供が可能。安定的に収益増が見込める」との答弁に終始しました。病院を2つに分けるメリットはありませんが、病院は統合が効果的です。提案には賛否両論ある。全市的には低コストの運営と確保が基本、粘り強い説明で突破してもらいたいと思う。

皆様の意見とお聞かせ下さい

平和記念資料館値上げは 50円→200円 反対しました。

現在の平和記念資料館の観覧料は、昭和47年に大人50円、子ども30円に改定され、44年間据え置かれています。10年前の平成17年度当初予算で、被爆60周年記念事業で、この観覧料を無料とする改定案が提案されました。無料とする提案理由をアウシュビッツが無料であること、50円がすでに無料に近いこと入館者の4割子どもの85%が無料で入館しているなど述べられ、この平和記念資料館の料金設定について「広島市でもほかの公共施設ではこのような料金設定はございません。異なった扱いです。」と答弁しています。

結果、この議案は無料とする代わりに募金箱を設置する事募金箱収入を年間3千万円と見込み、予算計上されて事などが理由で削除され50円が据え置かれた経緯があります。被爆70年、今度は50円を200円に値上げす改定案が提案されました。値上げの根拠は維持管理費です。観覧部分の維持管理費を有料の入館者134万人で除した額225円地方自治法の規定で225円を上限とし入館料を設定。また、長崎市原爆資料館の入館料200円を参考にしたとも。値上げ部分の金額を一般会計から原爆ドーム保存基金に積み立て、被爆建物の修繕やソフト事業に充てるものです。年間積立額、現在の入館者では約1億2千万円です。

値上げ額を修繕や平和のソフト事業にあてるという一見おそうアテナにも思えますが、答弁から平和記念資料館が特別なものではなく普通の公共施設と同等の扱いという事ばかりで、市長がわかると施設の性格が変わりました。一般会計からの繰入額は、事業や基金の残額に応じて変わる事と、値上げ額全額が担保されていません。値上げと基金積み立てはリンクしていません。観覧料は施設の性格と反映し、平和記念資料館は、開設当初から特別なもの。

佐伯区の給食センターは 石内東の開発地に決定

五日市地区の学校給食センター3施設の内、北地区給食センターと中央学区給食センターの2施設を老朽化に伴い親会社が広島駅弁のアグリフーズに15年間 83億5千万円で委託さらに、将来的には、残る1施設の南地区給食センターも統合し、調理等の運営を委託するものです。業者の選定は一般競争入札ではなく複数の業者を総合的に比較するプロポーザルです。応募要項には、おいしく安全な給食を素早く安定的に供給できることは勿論ですが更なる付加価値を求めています。食材についても独自で調達できることや、給食調理に影響のない範囲で付帯業務ができる事となっています。ただ単に安い金額で落札できるものではないことになっています。12000食の食材の質の担保は、市の栄養士が複数で点検することになっていました。

民設民営、食材でも独自調達できる給食センターは全国でも珍しいでしょう。給食と民間事業者が行うに賛成です。今回の事業は、町に、従来の給食のあり方、例えば、独自で調達した野菜の代金は、給食会から同等の商品の代金を支払われ、安価な仕入れ、給食費に反映され、仕組みです。この経緯で、食材の調達も複雑になっています。佐伯区独自の調達経路や給食費の徴収方法などについて、検討してもらいたい旨を伝えました。

安保法案が可決したその日、防衛省の勉強会に参加

9月19日、女性議員を対象にした防衛省での国防に関する勉強会がありました。まずは、防衛省の敷地内を歩きました。都心に東京ドーム5個分の広さを有しています。施設を歩いて回るだけで1時間、広さと立派さにびっくりです。その後は、防衛政策局防衛政策課長による講義がありました。知らない世界話解りやすい説明で興味深かった。質問では、安保法案についてもざっくりばらんに回答されました。集団的自衛権の解釈が変わり、自衛隊の活動とリスクが高まることは事実であり、多くの憲法学者が違憲とし抗議行動も行っています。違憲を法治国家で行うことはできないが、憲法改正ができない前提で違憲と言い国際情勢無視することもできないと思っている。

●中国の脅威についてどう考えているのか？との問いに、中国はするく賢い国、米国の作った秩序に従いたくない。日本は中国に弱みを見せてはいけない日本だけでは勝てない、アセアンに対して中国が強く出るのは相手が弱いから、米国との連携が重要。

●集団的自衛権の行使により、テロのターゲットになるのではの質問には、まず国会承認が必要なので制度ができたからと言ってすぐに出ていくわけではない。過去の安全神話は通用しない財政支援だけしていれば、テロのターゲットならないとは言えない。シリア難民の対応を見ると大きな人道問題から憲法問題を理由に逃げていると答えた。日本も覚悟しなければならない。



この市政報告は市政改革ネットワークの承認を得て発行

佐伯区民祭り催事部会
5mの巻き寿司を試作中



100mの巻き寿司作り

今年度の佐伯区民まつりは第30回目となります。特別企画として100mの巻き寿司を作るよう企画しています是非ご参加ください

平成27年11月8日(日)
12:30~14:00
佐伯区民文化センター
参加費1人200円